

地域連携だより

第18号

2012.3



症例報告

002

外科 上野 満久

「間質性肺炎像を示す肺癌症例」

[TOPICS 1]

「地域連携だより」18号です。当院の医局医師による「症例報告」を連載しております。

第2弾は副院長で、外科部長の上野 満久です。



現在、外科医4名で外来診療、入院治療、手術、日直、夜間・休日オンコールを行っています。

当院の外科領域は、一般外科、肛門科、消化器外科、呼吸器外科、甲状腺腫瘍、乳腺外科など幅広く、特に消化器センターにおいては、消化器内科と連携して各種疾患の治療を行っています。

また、がん検診による胃癌、大腸癌、乳癌などの早期発見、手術、化学療法、緩和医療（ターミナルケア）まで、できるだけ癌患者様が住み慣れた地域で治療を受けられる医療を目指しています。

[症例] 患者：73歳、男性 主訴：無症状

既往歴：2001年12月右下葉肺炎（他院加療）

2006年5月 心房細動（当院で投薬中、ワーファリン・バイアスピリン）

喫煙歴：20歳～43歳まで B.I.（ブリンクマンインデックス）20本×44年間=880

現病歴：2001年1月より 当科でフォロー

[経過] 胸部CT所見：

2001年1月 右下葉 S¹⁰～S⁶ に径4cmの空洞性病変あり

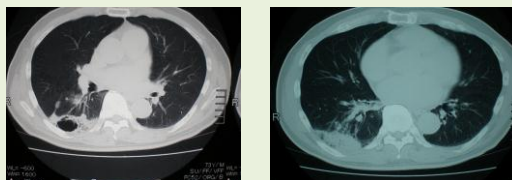
2001年4月 同様（他院でBFS、CTガイド下生検で悪性所見なし）

2004年3月 空洞壁は菲薄化

2006年10月 右B 中枢に娘結節（肺内リンパ節）出現

2007年3月14日 空洞壁の肥厚と末梢の間質性肺炎像の出現を認め、

CEA31.3と高値を示した。咳、発熱、胸背部痛は認めなかった。



FDG-PET 検査：3月25日 右下葉末梢と右下葉肺門部に淡い集積を認めた。

気管支ファイバー：ブラシ細胞診でクラスIV。肺癌の疑い。

血液検査所見：TPA、SCC、NSE、シフラ、SLX、CA19-9はいずれも正常。

CEA 高値：3/14；31.3 4/16；24.0 OPE 6/16：1.3

4/16：CRP0.06 その他の検査は異常なし

手術：右中下葉切除施行し、肺門リンパ節と腫瘍の一部を術中迅速病理検査に提出。

結果は Alveolo tubular carcinoma (adenocarcinoma)

(s-T2N1M0 stage IIB)

病理所見：乳頭状腺癌，p0，n0（p-T2N0M0 stage I B）

[結語] 右下葉空洞性病変のフォロー中に、空洞壁の肥厚と末梢に比較的広範囲の間質性肺炎像の出現を認めたが、無症状であった。CEA 高値と FDGPET 検査での淡い集積を認めたため、気管支ファイバー下の細胞診実施。クラスIVの診断を得て手術を施行。術後病理組織結果は p-T2N0M0 stage I B で予後は良好であった。現在のところ再発はなく、通院されております。

NST の効果

NSTとは、Nutrition Support Team のことで、「栄養サポートチーム」と訳されます。栄養管理はすべての治療法の基盤と言われ、栄養不良になると、体重減少、筋肉量の減少、内臓蛋白の減少（アルブミンなど）、免疫能の障害、創傷治療遅延、褥瘡発生のリスクが高まります。

この為、適切な栄養管理をしっかりと行うことにより感染症や褥瘡発生の減少、効果的なりハビリの実施、QOLの向上に繋がり、患者様にとっては在院日数短縮により早期退院、社会復帰が可能になり、抗生剤等の薬品の使用量が減少するので医療費の負担も減ります。

当院も、NST活動を実施しており、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士等の多職種で栄養不良の患者様や栄養失調に陥る恐れのある患者様を抽出し、改善に向けてサポートを行っています。

(管理栄養士 笹屋晶子)



平日 17:00 以降 土曜日 13:00 以降

日曜・祝日のご連絡先

TEL 0774-63-1111

FAX 0774-63-2363

上記の時間帯については、現在、当直事務員が電話応対し、日当直医師が救急対応させていただきます。

お電話でご相談ください。また、患者様がお来院される際は、できるだけ詳しい情報提供を担当医師宛にいただきますようお願いいたします。

緊急時の第一報はFAXでも結構でございます。

地域医療連携室では、紹介患者様の「ご来院報告」をFAXでお送りしています。担当医師からは、治療方針等が確定次第、情報FAX若しくは「ご報告書」にて、ご紹介患者様の状況をお伝えしております。

さらに、急性期治療を終わられましたら、再び、かかりつけの先生方への逆紹介を積極的に行っております。

また、ご退院時や転院時には詳細な「診療情報提供書」を作成し、かかりつけ医の先生方と連携して、その後のフォローアップができるよう心がけております。

発行：田辺中央病院 地域医療連携室
住所：〒610-0334 京都府京田辺市田辺中央 6-1-6
(直通) TEL・FAX 0774-64-0444
(代表) TEL0774-63-1111・FAX0774-63-2363

Eメール：chiren@sekitetsukai.or.jp

第4回 たなべ市民健康公開講座のご報告 イベントテーマ：健康寿命を延ばそう

前号で、ご案内しておりました第4回田辺市民健康公開講座を平成24年3月10日(土)田辺記念病院5階会議室にて開催いたしました。

内容は田辺中央病院の脊椎センター長 齋藤令馬医師による「腰の病気について」。市民の方々に腰部の疾病概要、治療法、予防について講演させていただきました。

ご参加いただいた定員を上回る140名もの方々からは、たくさんの質疑応答が寄せられました。

腰痛は有訴者1100万人ともいわれ、現代日本の代表的な疾患であるだけに、さまざまな民間療法がちまたにあふれています。しかし、症状によっては、適切な診断や治療を受けられない場合、改善どころか悪化してしまう場合も少なくありません。そうなる前に、整形外科の腰椎専門医へのご受診を当院では強くお勧めしています。

齋藤先生の診察 月の午前・木の午前午後予約診
※ご紹介患者様は、地域連携室にご連絡ください。



田辺中央病院 地域医療連携室

直通 TEL/FAX

0774-64-0444